「自然」と「歴史」を体感。のんびり歩いて宮地を楽しもう！

緑　豊かな木々、さらさらと水路を流れる水の音。鳥のさえずりに誘われて、ちょっと坂を上れば球磨川の絶景。ぶらぶらと歩けば歩くほど、清らかな自然とディープな歴史が味わえる……。それが宮地です。

中心は何といっても八代神社（妙見宮）。その長い歴史は古代以来で、「上宮」「中宮」はこの一帯が常にパワースポットとされてきた証拠です。さらに水無川沿いには、厳かなる懐良親王御墓や悟真寺、宗覚寺、古麓の山裾には春光寺、古麓稲荷神社。そもそも「初代」八代城は古麓で、戦国時代この一帯は城下町でした。豊臣秀吉もルイス・フロイスもやって来た場所なのです。※

また、「水路」が多いのも特徴です。特に球磨川の水を貯め入れる「湾洞（わんど）」は今も昔も八代平野（鏡・千丁までも）を潤す用水のスタート地点。この水路のルートは江戸時代から本格整備されました。自然を利用した八代の先人たちの知恵と技術は、今でも私たちに豊かな暮らしの恵みをもたらしてくれているのです。

つまり、この一帯は、あらゆる点で八代の「源（みなもと）」。これを知れば、宮地歩きがさらに楽しくなりますよ。さあ、〝プラ宮地〟で地元の魅力を再発見してみましょう。

※ルイス・フロイス…ポルトガルのカトリック司祭、宣教師。イエズス会士として戦国時代の日本で宣教し、織田信長や豊臣秀吉らと会見。戦国時代研究の貴重な資料となる『日本史』を記したことで有名。

宮地小唄

作詞／水野義一　作曲／小野茂
歌唱／秋山フジ子

一.
赤い鳥居のお稲荷様に
咲いたこよいの桜馬場
そぞろ歩きに袂が触れりゃ
胸もとどろく芭蕉谷

二.
竿をあぐれば小鮎が躍る
球磨の川瀬の青あらし
流す筏の遥拝あたり
虹に名残の陽が沈む

三.
唄はどこから姉さんかぶり
晴れて明るい雲柑山
櫓り豊かな妙見まつり
手振り揃えた夫婦獅子

四.
想い偲べば御小袖しぐれ
熱い瞼がまた濡れる
思いかえして瞳をあげりゃ
粋な襷の紙漉場

▲昭和21年、宮地劇場にて発表されました

宮地 〜八代の歴史に思いを馳せながら〜 〝水路めぐり〟のススメ

砥崎の河原よりとら太の会の前の通りを進むと、水無川から分岐した水路を流れるせせらぎの心地よい音が聞こえてきます。久木田天神から新免武蔵塚、御小袖塚へ向かう小径沿いの水路の、清らかながらたっぷりと勢いよく流れる透明な水を眺めつつ、のんびりと歩く…。風情ある佇まいの町並みの中で水の流れる音を聴いていると、どこか知らない町にタイムスリップしたような感覚になります。

そしてもう一つ、八代の水の生まれるおおもとである球磨川から大量の水を引き込む場所が「湾洞」です。

八代の用水の心臓部分となる湾洞は、通称〝わんど〟。遥拝堰から取り入れられた球磨川の水が、一度この湾洞に貯水し、これから太田井手（古麓から宮地を通り太田郷〜千丁までの水田を灌漑する用水幹線）と麓川の二つの用水幹線に分流するための貯水池。ここから2つの川へ分岐し、八代平野全体を潤しているのです。

水の生まれる町・宮地。ここはまだまだ奥深く、歩けば歩くほど新しい発見でいっぱいの町なのです。

参考資料／「八代を見る知る伝える八見伝」、「古麓稲荷神社略記」、「御小袖塚蘇生る」

A 古麓稲荷神社　B 古麓稲荷山展望広場

古麓城の鎮守。秀吉も訪れ、ルイス・フロイスが「絶景」と評した八代を一望

概　要
建武2年（1335）、名和長年の長男、名和義高は古麓山一帯に山城を築いた。これが八代城となり、その鎮守として丸山の頂上に「稲荷神社」が誕生し、山城の鎮護と五穀豊穣を祈った。延宝5年（1677）11月18日、この山下に「春光寺」が落成したのち、現地点に遷座された。

御祭神　保食大神（うけもちのおおかみ）
相　殿　大物主大神（おおものぬしのおおかみ）
　　岡象女大神（おかきさめのおおかみ）　櫛大神（くしのおおかみ）
　　菅原道真公（すがわらのみちざねこう）

例祭日
例　祭：12月15日
初午祭：2月初午の日
大　祓：6月、12月
月次祭：毎月1日・15日

242段の石段は、約20年ほど前までは市内の小・中学生のトレーニングに利用され、懐かしく感じる世代の方も多いはず。上りきった先の本殿には、神社としては珍しくローソクと線香（100円）がありお参りができます。さらに進んだ先には、市民有志の皆さんが整備されて生まれ変わった展望広場があります。蛇行した豊かな球磨川を一望できる絶景スポットです。

242段の階段は森の中の鳥居をくぐりながら昇降します。

本殿の妻飾は南側が龍〈写真左〉、北側には鮮やかな色の魚と波の模様が。神社の妻飾に魚の模様が入るのは大変珍しいそう。

この絶景にフロイスは、「八代はなんと美しく豊穣な町なのか」と感嘆したと伝えられています。広場には八代工業高校、秀岳館高校の生徒の皆さんが作ったテーブルとベンチもあります。

C 江東山 春光寺〈臨済宗〉

「句碑寺」、「あじさい寺」とも言われる松井家の菩提寺

概　要
天正11年（1583）初代松井康之が亡父正之追善のため、丹後久美浜に常喜山宗雲寺を建立したのに始まります。その後、豊後杵築・豊前小倉・肥後熊本と移り、延宝5年（1677）直之の代に現地に移され、江東山春光寺と改称し今日に至ります。

先代の住職・澤田清宗（1907〜2002年、俳号・春光寺花屑（かしょう））は俳人でもあり、寺では句会も行い弟子も20名ほど持ち、俳句仲間がいつも集まっていたそう。敷地内には西山宗因、高濱虚子、松尾芭蕉などの句、短歌、詩など全部で30もの碑が至る所に建てられ、今では俳句ファンには欠かせないスポットです。

八代市立博物館で開催中の『日本画の巨匠　堅山南風展』では、清宗と南風の手紙のやり取りが紹介され、主に南風が清宗へ句の添削を請うものが多く、貴重な資料として紹介されています（※6月4日まで開催）。

6月に入ると約100株もの紫陽花が見頃を迎えます。毎年多くの方が紫陽花を見に訪れ、写真を撮る姿も。八代の紫陽花スポットとしても馴染みのあるお寺です。

〈写真左から〉春光寺花屑、松尾芭蕉、西山宗因、稲畑汀子の句碑

俳句紹介

ながむとて花にもいたし首の骨	西山宗因
馬ほくほく我を絵に見る枯野かな	松尾芭蕉
垂乳ねの墓弔えば秋の蝶	堅山南風
天地の間にほろと時雨哉	高濱虚子
行秋の八代目和蝶多し	高濱年尾
一本の紅葉に染まりゆくわれか	稲畑汀子
夢かゆ免か月の舟より櫂の音	春光寺花屑
尻べたに花屑つけし寺の猫	春光寺花屑

D 中宮山 悟真寺〈曹洞宗〉　E 懐良親王御墓

八代出身の作家も滞在。懐良親王の菩提寺

概　要
南北朝時代に懐良親王の菩提を弔うために創建されたと伝えられる。総本山は修行が厳しい永平寺。寺名は親王の法名「悟真大禅定門」に由来。創建の年代は元中7年（1390）説の他に諸説あり。中世は83もの末寺を持ち、その住職たちが輪番制で悟真寺の住職を務めてきた。現在の住職は148代目となる。

急勾配の坂をほどなく歩くと途中から石段となり、山門をくぐると樹齢400年の大きな銀杏の木に迎えられます。鹿もやってくるという、標高75mの山の中腹にあり、境内には正面に御霊殿、右手に本堂、左手には菅原道真公の天満宮、そして徳富蘇峰の詩碑「懐良親王頌徳碑」、駐車場には八代出身の作家であり八代高校校歌の作詞者である耕治人の碑があります。貴重な中世の文化財に数多く出会え、歴史的なエピソードに溢れる風格満点のお寺です。

御霊殿

本堂

懐良親王座像

建物は大正10年6月竣工。明治から昭和期の建築家で工学博士の伊藤忠太氏の設計。懐良親王御自筆の父君後醍醐天皇、母君霊照院禅定尼の御霊牌、名和家などの位牌が安置されています。

八代出身の作家・耕治人（1906〜1988年）の記念碑。平林たいこ文学賞、読売文学賞受賞。同寺に滞在した時期があり、八代高等学校の校歌「道」の作詞も滞在中に書いたと言われています。地元有志の方々により、緑の深い悟真寺に記念碑が設置されました。

〈写真左から〉本尊釈迦無尼仏、開山座像、地蔵菩薩。併せて、本堂には檀信徒各家のご先祖が安置されています。

懐良親王御墓

懐良親王は後醍醐天皇の皇子として征西大将軍となり、九州における南朝方の中心人物として活躍し、弘和3年（1383）に亡くなりました。明治11年（1878）、ここが墓と認定され現在は宮内庁管轄となっています。木に囲まれ凛とした空気が漂う清々しい場所です。

F 泉福山 宗覚寺〈日蓮宗〉

落語家・立川談志ゆかりの寺が八代に

概　要
疱瘡により9歳で亡くなった加藤清正嫡男、忠正の菩提所。慶長13年（1608）、泉福山本成寺として建立。その後八代城下に移転したため草庵を建て墓守を置き、50年間供養を続け、天和3年（1683）現場所に本堂創建。忠正の法名「理性院殿宗覚日等居士」に因み、宗覚寺となる。

春には見事な枝垂桜が咲き誇る宗覚寺。時期になると多くの方が訪れる人気の花見スポットでもあります。また、俳句に縁の深い宮地らしく、八代では珍しいと言われている芭蕉塚のうちの一つが裏庭にあります。また、住職は落語家の立川談志と親交が深く、平成3年から23年までの間に12回もの独演会を開催してきました。現在は、副住職が立川一門のお弟子さんを招いて落語会を企画しています。

いなづまにさとうぬ人の尊とさよ

この句は芭蕉が元禄3年（1690）に詠んだもので、句碑は芭蕉没213年後に建立。碑側には建碑者である弓削清三の父の句と、八代正教寺・文暁の追悼の詩が刻まれています。

住職へのお礼の手紙やハガキは数えきれないほど。談志さんのユーモア溢れる人柄を表すような内容ばかり！

G 妙見中宮跡　H 妙見上宮跡

いにしえの祈りの場は八代随一のパワースポット！

★上宮までの道のりは登山です。かなり険しい山道なので必ず登山スタイルで。絶対に1人で登らないようにしましょう。

上宮への登山口より鳥の囀りの響き渡る深い森の山道を歩き進めると、アナグマや鹿にも遭遇。予想以上に険しい登山道を登ること約1時間、光によってぽっかりと浮かび上がっているように見える上宮に到着します。ここは突然空気が変わり、神々しさに満ちた神聖な場所でした。

そして下山し、中宮へ。中宮脇より湧き出る水は、『熊本県平成の名水百選』にも認定されている人気スポット。疲れも吹き飛ぶような美味しい水です。

中宮脇にある手水舎の蛇口を捻ると美味しい水が汲めます。

妙見中宮は「妙見祭」でなじみ深いお宮。